

# 第1回富山市総合計画審議会「第1回 活力・交流部会」 議事録

日時：2015年10月5日（月）14:00～16:00

場所：富山市役所 802会議室

出席者：（順不同）

長尾治明	富山国際大学現代社会学部現代社会学科教授（部会長）
宇津孝志	富山市美術作家連合会会長
鶴殿裕	株式会社日本政策投資銀行富山事務所所長
太田勝久	富山公共職業安定所所長
桑山比呂志	日本労働組合総連合会富山県連合会富山地域協議会議長
酒井富夫	富山大学極東地域研究センター教授
平井丈夫	大山地域自治振興会連合会会長
渡辺孝子	公募委員

企画管理部	今本部長、上谷次長、西田次長
都市整備部	高森次長
商工労働部	太田次長
農林水産部	蛭谷次長、篇原次長
教育委員会	奥村次長
大山総合行政センター	森井次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 部会長職務代理者の指名について
4. 第2次富山市総合計画基本構想（素案）について

○資料「第2次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

**部会長**

- ・ 部会では、「人が集い活気にあふれるまち」を取り扱う。富山市の現状を踏まえ、富山市が向かうべき将来像についてご意見をいただきたい。

**委員**

- ・ レジリエンスについて、「強くしなやかな力」との説明だが、具体的にはどのようなことを意味しているのか。

**事務局**

- 柳のようなイメージである。強靱化すると同時に、ストレス等を受け流すことができ、持続性が保たれている。

- 現在、総合計画とまち・ひと・しごと総合戦略とロックフェラー財団に選定された強靱化計画に同時並行で取り組んでいるが、それぞれが目指す方向は同じである。レジリエンスの考え方も踏まえ、硬直的にならずに様々な事象に対応できるようなイメージを持っている

#### 部会長

- ・ レジリエンスについては、ハードとソフト（あるいは剛と柔）をうまく組み合わせながら持続性を保っていくという解釈もできるだろう。

#### 委員

- ・ 資料 P.12 の「産業活力の強化」について、「グローバルな展開」や「ビジネスとしての振興」についての言及があるが、中山間地域の農業や零細企業にはそうしたビジネスとは異なる性格がある。レジリエンスを実現するためには、中山間地域や零細企業、ファミリービジネスのような産業についても目配りをしておく必要があるのではないかと。
- ・ 資料 P.10 には世帯数の推移についての説明がある。人口の減少とともに家族の在り方も変化している。昔から特に農村部には直系家族（三世代家族）が多かったが、世帯構造の変化が農業経営の継承にも大きな影響を与えるようになってきた。データの作成が非常に難しい部分でもあるが、今後世帯がどうなるかという予測をしておく必要がある。地域のコミュニティや実態に合った細やかな支援体制を考えていくことが重要であり、そうした視点をもう少し打ち出してもよいのではないかと。

#### 部会長

- ・ 最近ではシェアハウスのように、直系ではない他人同士が一つ屋根の下でコミュニティを形成していくという新たな概念も出てきている。今後コミュニティがどのようになっていくかについても、人口問題と合わせて見ておく必要があるだろう。

#### 委員

- ・ 「時代の潮流」と「富山市を取り巻く状況」、「主要課題」、「基本目標」のつながりがよく理解できない。きれいに一対一の対応にはならないかもしれないが、それぞれの項目のつながりが分かりやすいよう、整理した表を作成する等、もう少し整理いただきたい。
- ・ 「主要課題」には、富山市としての Will（意思）が入っているように思う。課題というタイトル付けは変えた方がよいかもしれない。
- ・ 「時代の潮流」と「富山市を取り巻く状況」の区別はどのようにされているのか。いまいち区別がピンとこない。
- ・ 住民が「この施策は必要なんだ」と分かるような資料になるとよいのではないかと。

#### 部会長

- ・ 最終的には具体的な施策、計画まで落とし込むことになるだろうが、現段階で全体像を示すフローチャートのようなものがあるとよい。
- ・ 市民の方が見る場合の解釈についても考慮していただければと思う。

#### 委員

- ・ 資料 P.12 の「産業の活力」についてだが、産業には基盤産業もあれば先端産業もある。もう少し基盤となる産業についても言及した方がよいのではないかと。富山市には大企業があるが、大多数は零細企業である。そうした部分についても大事にしていきたい。
- ・ 資料 P.11 の「多様な人材の育成と地域への定着」について、企業から見て、学校の教育が実践からか

け離れているという問題がある。学校に民間企業の人材を講師として招く等、より実践的な教育を行っていくことが産業の育成にもつながるのではないかと。

#### 部会長

- ・ 大学に対しても、実践的な教育のあり方が問われている。文部科学省でも職業教育を重視した高等専門教育機関の設置も含め、学校と企業のギャップを狭めていくための取組が行われており、こうした点についても考慮する必要があるだろう。

#### 委員

- ・ 富山で生まれ 70 年間暮らしてきたが、素直に「こんなものかな」と拝見した。富山の誕生には災害が関係している（震災を契機に、金沢からの移転が行われた）。富山の歴史に関わりの深いレジリエンスは重要な要素だろう。
- ・ 資料 P.17 の「将来都市構造」についてだが、周辺部からすると全て中心に集約されてしまうのかという思いがある。団子と串のまちづくりについて、住民にもう少し理解を深めてもらうような施策が必要だろう。もう少し見えやすい形で、何か取組ができないだろうか。

#### 部会長

- ・ コンパクトシティについて、確かにそうしたとらえ方をしている人もいる。団子と串という考え方を住民に分かりやすく伝えることは重要だろう。13 の地域生活拠点もいずれ都心に集約されてしまうのではという心配をしている人は多い。

#### 委員

- ・ 資料 P.17 の「将来都市構造」について、南北に対する鉄軌道の考え方はよいが、東西のつながりが欠けているのではないかと。

#### 委員

- ・ 団子となる八尾、婦中等の地域生活拠点について、具体的な計画や見通しは立っているのか。旧富山市内はそれなりに何か取組が行われるのだろうが、旧富山市以外の計画についてはどのような状況になっているのか。

#### 事務局

- 中心部以外の団子について具体的な計画は持ち合わせていない。都市マスタープランで居住エリア、近隣商業エリア等の用途地域については定めているが、明確な将来イメージはまだない。昨年、都市再生特別措置法が改正され、居住拠点地区等、団子の中身について検討できることになった。13 地域については現在計画を検討しているところであり、来年度には将来像等をお示ししたいと考えている。
- 都市計画区域内ではない山田、細入地域についても、6 次産業化や交流拠点の形成も含め、検討を行っていきたいと考えている。

#### 部会長

- ・ ネットワーク形成についても、今後検討が行われるのか。

#### 事務局

- 串と団子の計画を実現するために、交通網は必須である。交通網についても、各地域の計画と同時に示していきたいと考えている。
- 民間に委ねる部分も多いが、国の支援、行政の取組、市民との協働も欠かせないと考えており、

各地域の住民の皆さんとも協働していきたい。

#### 委員

- ・ 資料 P.3 で「行政サービス全体が向上していると言える」との記述がある。行政としてはなかなか言いにくいかもしれないが、財政的な制約も含めて行政サービスの限界については言及しておく必要があるのではないかと。NPO の活用についても言及があるが、民間活力を取り入れていくことの必要性についても明確に示しておくことが必要ではないか。
- ・ 実践的な教育についての意見があったが、ふるさと教育にも触れられるとよい。「文化・芸術に対する機運の高まり」は富山らしい内容で、冒頭に出てきてもよいと感じた。ふるさと教育にもつながる話だろう。
- ・ 富山県内の人口は富山市で食い止めている状況であり、その役割を担っていくことは重要だろう。

#### 部会長

- ・ 歴史の中から富山らしさを感じる部分は多い。菓等もそうだが、歴史的なつながりの中で現代産業や現在の課題が語られてもよいだろう。文言の使い方について、もう一度検証いただきたい。

#### 委員

- ・ ふるさと教育なしには U ターンを実現することは難しいだろう。富山市民であるにも関わらず、富山市のことがよく分かっていない。富山市にどのような文化や企業があるのかを啓発していくことが必要ではないか。結局のところ、教育が重要になるのではないかと感じている。

#### 部会長

- ・ ふるさと教育等の取組は、市民が地元を誇りを持ったり、観光を振興していくことにつながるだろう。小・中学校の教育も非常に重要であり、幅広くふるさと教育を考えてもよいのではないかと。

#### 委員

- ・ ガラス産業は全国的に知られており、最近では人材の育成にもつながってきている。次のステップは、海外に送り出すことではないだろうか。現在、企業や団体に対する支援はあるが、海外に挑戦しようとする個人に対する支援はない。芸術・文化、スポーツの分野でも、支援のあり方を考えていくことが必要だろう。
- ・ 芸術・文化については、一般の人が「楽しむ」ということが重要だろう。「教える」から「楽しむ」というところまで行きつくことができると、地域の活性化にもつながっていくのではないかと。

#### 部会長

- ・ 地域づくりも、最後はやはり人が重要になる。個人に対する支援策を考えていく必要がある。
- ・ また、「楽しむ」ことはシティプロモーションの推進、シビックプライドの醸成にもつながる部分である。市民一人一人が富山のよいところを認識できれば、県外へのプロモーションにもつながっていく。

#### 委員

- ・ 資料には立派な内容がたくさん書かれており、感服した。ただ、合併して 10 年が経ち何が変わったかと聞かれば何も変わっていないというのが個人的な印象である。私は婦中に住んでいるが、コンパクトシティの政策が進められる中で、中心部ばかりにお金が使われているように思う。読売新聞に、「現在は中心部に資金を投入しているが、他の地区への還元にもつながる」という市長のお言葉があったが、周辺の地区では気長に待っているしかないのかと思った。

- ・ 高齢になると車を使わなくなり、移動手段もコミュニティバスに頼らざるを得なくなる。団子の中身について検討しているとのことだが、そうした話を一度も聞いたことがない。郊外に新興住宅地を開発するにしても、10何年掛かりの計画では若年層がどんどん外に出て行ってしまう。地元に残るための仕組みが必要である。

#### 部会長

- ・ 情報提供をいかにしていくかということは重要なポイントだと思うので、考えていく必要があるだろう。

#### 委員

- ・ 資料 P.12 の「産業活力の強化」に「インフラの整備」について書かれているが、全国的に見ても日本の港は狭い。コンテナ貨物は全て釜山に行き、釜山から小分けにされたものが日本に運ばれている状況である。富山に大型港湾が作られれば、アジアにおける重大な役割を担うことができる。魅力的なインフラがあれば、自然と企業が集まり産業振興にもつながる。関東にも関西にも近い富山市の立地を活かしていくことも重要だろう。

#### 事務局

- 港湾を含めた整備については議員にも諮った上で、県や国に要望を提出している。できる限りの現実的な対応はしているところである。

#### 委員

- ・ まちなかに住んでいるが、買い物に行く場所が充実するとよい。市役所 1 階のコンビニエンスストアを土日も開けていただけると、高齢者も一休みすることができてよい。

#### 部会長

- ・ 中心部では、土日は飲食店も閉まっており不便を感じることが多い。拠点としてまちの機能をいかに充実させていくかという視点も重要だろう。

#### 委員

- ・ 射水市で働き、富山市で暮らすというような視点があってもよい。全てが富山市で完結する必要はないだろう。

#### 部会長

- ・ いつまでもここに住んでいたいというような環境をつくることが重要である。富山駅から放射状の整備が行われているが、環状線があるともっと便利だろう。

#### 委員

- ・ ネットワークの整備に関して、具体的な案はあるのか。

#### 事務局

- コンパクトシティでは、公共交通を整備し、その沿線に様々な機能を配置していくことを目指している。沿線の居住人口を、現在の 3 割から 1 年後には 4 割程度に引き上げたいと考えている。これ以上市街地を拡散させないことも重要である。
- 富山駅からは 13 の鉄軌道が整備されているが、高山線は一日 50 便程度である等、まだ便利でない部分もある。今後は上滝線の乗り入れも含めて検討していく必要があるだろう。
- バスについては、富山駅から 100 系統の路線が整備されている。一部路線については改良を行いつつ、路線を維持していきたいと考えている。

## 委員

- ・ 東京には suica（スイカ）があるが、富山市でも鉄道から美術館まで 1 枚で全て回れるような IC カードがあると非常に良い。地域の活性化にもつながるのではないだろうか。

## 委員

- ・ suica が富山市でも使えるとよい。

### 事務局

- IC カードには ecomyca（エコマイカ）と passca（パスカ）の 2 種類があり、鉄道、バス、路面電車等で相互利用することができる。これらの IC カードを整備する際、suica との連動についても検討が行われたが、連動するには倍以上の初期費用とランニングコストが必要になるため、導入を断念したという経緯がある。
- 現在国土交通省でも共通カードの利用について議論が行われているが、最終的にどこが費用を負担するのかが争点になっている。

## 委員

- ・ passca で富山市全域を利用できるとよい。

### 事務局

- IC カードの連動に当たっては、企業が倒産した場合のリスクを考える必要がある。複数社が提携した場合には、リスクを補てんするために補償金を毎年積み立てる必要があり、大都市圏に比べてユーザ数の少ない地方部での導入が難しいという背景もある。

## 委員

- ・ 図書館のカードでも、相互利用できると大変便利である。

## 部会長

- ・ 路面バスの 100 系統は全て富山駅を拠点としているとのことだが、13 の地域生活拠点についても、拠点性を持たせられるとよい。

### 事務局

- その場合には、大規模な路線の見直しが必要となる。

## 部会長

- ・ 集約をしつつ、鉄軌道にも収益を還元できるような取組を検討できるとよい。団子の役割が明確になれば、市民も計画を理解しやすいのではないだろうか。

### 事務局

- 次回は 11 月中下旬を予定している。

(以上)